



中高生とともに差別と闘う

「メーテルリンクの『青い鳥』」

吉成タダシ



人生一回きり

「卒業おめでとう 今年で義務教育終わりですね。あなたの成長を願います。心身の成長が私の励みになり希望になっていきます。これから高校、大学、就職と、人生の荒波に乗り込み、自分で生きていかなければなりません。その中で喜びや楽しみ、やりがいを見つけて下さい。応援していますが、色々な困難にぶつかると思いますが、負けないで、人生一回きり、冒険して下さい!!」

受験期の中ほどがきて、両親は離婚してしまいます。転居をして母子二人の新生活が始まりました。校区内であったため転校はせずに済みました。お母さんが三交代勤務をするなか、なかなか自分一人できず、私が家まで起こしに行くことも度々でした。中二のころは、自分のとつていた不適切な行動で、周りからの評判は決して良くなかったと、自分自身を振り返るまでに成長していきます。そんな彼を思い、これからの人生を応援する、お母さんの言葉でした。

あなたは自慢の娘

「卒業おめでとう これからも笑顔忘れずに、新しい目標に向かって頑張ってください。あなたは自慢の娘です。何事にも自信を持って!!」

一時期、「夜の散歩」と言っ、家から遠く離れたところまでウォー

キングを繰り返していた彼女。どうしてそんなところまで……と訊くと、言いにくそうにしながら小声で、「小学生の時に離婚して別れたお父さんが住んでいる家」だとのこと。お父さん子だった彼女。別れた両親を責めるのではなく、ただひたすら昔の家が恋しくて、お父さんが恋しくて、一人歩きを繰り返していたのでした。そんな娘の不安な気持ちが分かっていたからこそ、「自慢の娘」と抱きしめたい気持ちでいっぱいだったのだと思います。そしてその気持ちに伝えるかのように、最後まで踏み張り抜いていきます。そんな彼女に向けた、お母さんからの言葉でした。

あなたなら大丈夫!

「卒業おめでとう あつという間の三年間でしたね。部活で汗まみれで練習した毎日。つらくて学校へ行けなかった時期。苦難を乗り越えて元気に学校へ通う姿。りっぱに成長しましたね。あなたなら大丈夫! やれば出来る子だと信じてます。どんどん前向きに進んでいこう!」

中一の途中から友達関係で不安定になり、不登校になっていた彼。部活動にはこだわりがあり、放課後や休みの日には登校できるものの、教室には入らず、別室登校を繰り返していた日々。父が経営していた飲食店が火事になり、その後の仕事があまくいかないう姿をずっと見続けてきました。それも三年生になり、

仲間の存在に支えられ、「将来は父さんのような料理人になる」と、ぶれない夢を抱くようになり、まったく休まなくなり、励まし続けたお母さんからの言葉に、彼がいつも見せる人懐っこい笑顔の原点を見ることができました。

代筆をした父より

「義務教育修了という事は、これからはすべて自分で判断して行動してやっていけるという権利を得たという事だと思おう。けどちゃんとアシストはしてやるから。兄もきつとパスを送ってくれるはず。急にまたオヤジになっただけど、いつも遊んでくれてありがとう。卒業、本当におめでとう!

母さんと兄の代筆をした父より

小学生の時に両親が離婚。二年前、一緒に暮らしていた母親も急逝。四歳年上の兄と二人だけでアパート暮らしを始めることになりました。しかしその生活は、経済的にも精神的にも不安定で、確かなものではありませんでした。そんな生活を知り、手助けになればと連絡の再開をはじめた父。しかしその父も、受験前に体調を崩して吐血し、緊急入院することになります。それでも、「オヤジ」としての責任を全うしようと、踏み張り、支え、親子の関係を紡ぎ直そうとしました。「母さん」への感謝を忘れないお父さんからの言葉でした。

メーテルリンクの「青い鳥」

私は、この年に出会ったコウキやサキをはじめとする子どもたちとの学び合いのなかで、「自分がやってきた部落問題学習はこの学校でも通用する。可能性はもっと広げられる」という一つの確信を得たような気がしました。ここに掲載した「励ましの言葉」には、「差別」という言葉も、「人権」という言葉も入っていません。でも、どの文面にも、その根源となるテーマ「家族の絆・故郷への思い」がしっかりと横たわっているような気がするのです。このテーマに、差別・被差別は関係ありません。それは、どんな立場も超えた、人間としての共通したテーマだからです。私が人権学習をするときは、どんな資料を扱っても、語り合うテーマはいつも、「家族の絆・故郷への思い」でした。資料を通して、このテーマについて自分を語る、自分の中にある本当の思いを語り合うことを子どもたちに問い続けてきました。そしてそこで語られる子どもたちの生の声が、いつも私の心を揺さぶり続けました。きっと、そんな心揺さぶられるような話は、どこか遠いところに神々しくあるのではなく、実は身近な、当たり前のよう

なところひっそりとあるのです。メーテルリンクの「青い鳥」のようなものなのです。このような発想ができるようになるまで、私は本当に長い時間を費やしてしまいました。次回(二〇一六年成人式祝辞)